

ORACLE

Cloud Perspectives:

# IT部門の 役割を見直す

管理から革新に移行する  
ITリーダーのためのガイド



# 目次

---

## はじめに

### パート1

これまでの経緯：

**革新的であること**

### パート2

IT部門の事情：

**予算への配慮**

### パート3

考慮すべきもう一つの側面：

**データの安全性を確保**

### パート4

さらに視野を広げる：

**ITマスター・プラン**

### パート5

まとめ：

**Oracle Cloud Infrastructure上のOracle Autonomous Database**

## はじめに

IT部門は、担当者ベースで、さらにはチーム全体で、ToDoリストをチェックする時間と手間を削減し、画期的な何かを推進することにもっと集中できるようになります。

“今日のITがなくなることはありませんが、今後はより大きな戦略の一翼を担うことにならざるを得ない状況です。そして現在の競争力を維持するために、企業は既存のIT基盤上にインテリジェンス・テクノロジー・フレームワークを導入する必要があります。” ※1

- Conversable社 共同創設者 兼 CEO, Ben Lamm氏

システムやデータのセキュリティ確保、アプリケーション開発、収益増、あるいはコスト削減、いずれであっても、現在のIT部門のリーダーは、管理と革新の両方に配慮する必要があります。

では、これら全てをうまく進めていくためにはどうすればよいのでしょうか。一言で言うと、新しいテクノロジーを活用するのです。そうすることで、IT部門は、担当者ベースで、さらにはチーム全体で、ToDoリストをチェックする時間と手間を削減し、画期的な何かを推進することにもっと集中できるようになります。

※1 InformationWeek『The Future of Information Technology is Intelligence (情報技術の未来はインテリジェンスが握っている)』2018年

# 革新的であること

IT部門の担う最も重要な仕事の1つとして、テクノロジーの実験や革新が挙げられます。実際、こうした仕事に携わりたくてIT部門を目指した方も多いことでしょう。しかし日々の作業に忙殺され、革新からは遠ざかっている状況です。

たとえば開発とテスト、本番用、その他、個別のアプリケーション・ライフサイクルの管理に要する手間やコスト。あるいは十分活用されていないインフラストラクチャーや、オンプレミス・データベースの継続的な保守。そうした日々のタスクを抱えながら、新しいテクノロジー（たとえばコンテナ、Kubernetes、機械学習、デジタル・アシスタント、ブロックチェーンなど）の開発や実装に必要な経験が不足しているチームが、最先端技術を取り入れるのは非常に難しいことです。

**画期的な新しいソリューションを生み出すためには、  
以下のことを可能にするクラウド・テクノロジーを検討する必要があります。**

- デザイン・アーキテクチャを**実験する時間**が得られる
- 収益源になることを**ITチームに可能にする**
- ビジネス・イニシアチブと**ITチームのアクティビティ／ツールを整合させる**
- **IT部門だけでなく、他部門のスキルアップ**もサポートする

人工知能の活用方法を  
先行事例でご確認ください。

Harvard Business Review『The Rise of  
Intelligent Automation Report (インテリジェン  
ト・オートメーションの台頭に関するレポート)』



## 予算への配慮

IT部門がコストを気にしていると知って驚く人がいます。それはまぎれもない事実です。

IT部門はアプリケーションの作成と問題解決だけでなく、手間やコストの軽減、収益増の役割も担っています。データベースやレガシー環境の管理、システムのアップグレード、サービス・レベル・アグリーメント (SLA) の達成には高額なコストがかかります。企業が国境を越えて合併や買収を行った結果としてITソリューションの統合が必要になる場合は、コストはさらに膨大なものになります。

**CIOが想定した予算内に収めるためには、  
以下のようなデータベース・ソリューションをお勧めします。**

- **統合されたサービス**：バックアップ、パッチ適用、チューニング、コラボレーションを支援
- **柔軟な拡張性**：ピーク時のみ使用されるリソースへのコストを削減
- **省力化**：余計な保守作業やその手間を軽減

# データの安全性を確保

データベース・テクノロジーのセキュリティ確保は簡単に実現できるものなのでしょうか。答えはYesとNoの両方です。IT部門以外の社員は顧客データの保護にかかる労力について理解できていないことがほとんどです。

今日の脅威は様々な形で発生します。国家的な規模のものから、APT（Advanced Persistent Threat：高度で継続的な脅威）と呼ばれる高度で継続的な攻撃、組織的犯罪、内部関係者による不正行為などが含まれます。（そしてデータ漏えいのコストは平均で約386万ドル（約4億800万円）です。<sup>※2</sup>）このため、パッチ適用が日々欠かすことのできない重要な作業になっています。適切な方法で顧客データを保護したいと考えた今こそ、クラウドに移行するべき時といえるでしょう。（ミッションクリティカルなワークロードについても同様です。）

**データ、顧客、そしてご自身のキャリアを守るためには、  
以下のようなエンタープライズ・グレード・データベースをご検討ください。**

- **常時暗号化**と次世代のセキュリティ機能の提供
- **可用性とセキュアなデータ転送の提供**（人手を介さずに）
- **混在ワークロード**とミッションクリティカル／エンタープライズ・ワークロードを同時実行可能
- **手動でのパッチ適用を軽減**して偶発的なエラーを解消

**自律型クラウドが必要な主な理由とは？**  
**Forbes誌の記事をお読みください。**

※2 Forbes誌『The Average Cost of a Data Breach is Highest in the U.S.（米国でのデータ漏えいによる平均コストが最高を記録）』2018年。

# ITマスター・プラン

IT部門以外の人たちは、それぞれがそれぞれの優先事項を抱えており、必ずしも全体像が把握できていません。しかし、すべての人がビジョンを理解しておくことが理想的です。

多くの企業がデータに基づくインサイトによって方向性を決めるようになったため、IT部門があらゆることに関与するようになりました。日々のシステム保守以外にも、ITチームはビジネス・エキスパートのニーズを変換し、ITの成果物としてアウトプットする役割を担っています。毎日、財務、マーケティング、営業、人事など、複数の部署向けに大量のデータ分析とレポート・システムの実装も行っていることでしょう。

短期的な目標と長期的な目標のバランスをとり、長期的な課題に取り組みながらシームレスにアプリケーションを高速化する、これが従来からの漸進的なやり方です。ただし、こうしたやり方を続けながら、「ビジネスを支援するITチーム」を育てるために時間を割くことは、ほぼ不可能です。

**IT部門の戦略目標を達成するためには、  
以下のようなデータ・ソリューションが必要です。**

- **予測的インサイト**を含むレポートを関係者に対して数分で提供する
- **一元化された正確な情報源を提供**し、カスタマー・エクスペリエンスを向上する
- ダウンタイムの少ない**非常に信頼性の高いトランザクション処理を提供する**
- データとアナリティクス機能へのアクセスに関して、**事業部門のIT部門への依存度を下げる**

**Autonomous DatabaseによってIT部門は  
次のことが可能になります**

1. データ・モデリングに注力
2. セキュリティおよび情報ライフサイクル・プロジェクトにおけるリーダーシップ
3. 常にデータベース・トレンドの最新情報を入手
4. アジャイル開発を推進
5. データによって新たな収益源を特定
6. 新しいアナリティクス・ツールの試用
7. 移行とアップグレードをリード
8. 管理者ではなくデータ・アーキテクトとして従事

**ブラジル最大の衛星テレビ事業者であるSKY Brasilが、オラクルによって地域全体での情報アクセスを実現した事例をご覧ください。**

# Oracle Cloud Infrastructureで提供される Oracle Autonomous Database

より多くの成果を達成するには、  
適切なクラウド・インフラストラクチャーと  
自律型データベースの使用が効果的です。

Oracle Cloud Infrastructure (OCI) 上で提供される Oracle Autonomous Data Warehouseは、load-and-go (データをロードしたらすぐ使える) を実現する完全自律型のシステムです。事前構成済みのセキュリティ基盤により、これまでになく簡単にセキュアにデータを移行することができます。

Oracle Autonomous Data Warehouseは、お客様の機密データを偶発的および悪意のある侵害から保護するとともに、ITチームによる手作業でのパッチ適用やアップグレードの手間を取り除きます。これにより管理コストを削減できるため、時間や人材を今後のビジネスへと集中させることができます。

Autonomous Databaseは自身でセットアップ可能なデータ・マート機能を備えるため、業務部門のユーザーはIT部門に依存することなく、必要な時にインサイトを得られるようになります。人工知能や機械学習の機能が組み込まれているため、ビジネスの革新に必要な隠れたパターンを明らかにすることが可能です。

世界中のデータの90%は  
過去2年の間に  
生成されたものです。<sup>※3</sup>

※3 Forbes誌『How Much Data Do We Create Every Day? The Mind-Blowing Stats Everyone Should Read (毎日新たに発生しているデータ量は？驚くべき統計情報)』2018年



## Oracle Cloud Infrastructure上で提供される Oracle Autonomous Databaseには、次のような特徴があります。

- オープン、セキュア、インテリジェントで、包括的なクラウドを数分で確立できる
- 一貫した高いパフォーマンスと強力なセキュリティを実現するよう設計されている
- ミッションクリティカルなアプリケーション（オラクル製品以外にも対応）を強化
- すべてのワークロードに対応：トランザクション、アナリティクス、バッチ、リアルタイム
- 新たなテクノロジーをサポートし、パブリック、プライベート、ハイブリッド、マルチといったあらゆるクラウド環境で実行可能

Oracle Cloud InfrastructureはOracle Autonomous Databaseを通じて、ITチームが最重要業務に専念できる環境を提供します。過去40年に及ぶ輝かしいイノベーションの集大成でもあるこのソリューションを、さらなる成果の実現にお役立てください。

“これからのビジネスについて考えるとき、自律テクノロジーはITの役割を定義し直し、単なるコスト・センターから企業の収益源へと変貌する可能性がある。”

- Santiveri社 コンピュータ・システム責任者,  
Angel López氏

クラウドへの移行は、企業のあらゆる部分に大きな影響を及ぼす意思決定になります。IT部門自身の役割を見直すことができるだけでなく、他部門の同僚もサポートすることができるプラットフォームを導入することで、財務や人事などの部署ともうまく連携できます。

イノベーションの推進、将来予測、採用、人材維持など、それぞれ目指していることが異なるからこそ、クラウドへの移行は不可欠といえるでしょう。ご安心ください。クラウドへの移行は企業全体を救うことになるはずです。

Oracle Cloud Infrastructureなら、データを活用してより多くの成果が上げられます。

新しいCloud Perspectivesシリーズで、適切なクラウド・ソリューションがお客様のビジネス全体にどのような効果をもたらすのかをご確認ください。

[詳細を読む](#)